

2024年12月27日

各位

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

海外証券現地法人のグループ内再編について

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ、株式会社三菱UFJ銀行および三菱UFJ証券ホールディングス株式会社は、本日、別添のプレスリリースを公表しましたので、お知らせいたします。

以上

(添付資料)

2024年12月27日付

「海外証券現地法人のグループ内再編について」

2024年12月27日

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ
株式会社三菱 UFJ 銀行
三菱 UFJ 証券ホールディングス株式会社

海外証券現地法人のグループ内再編について

株式会社三菱 UFJ 銀行（取締役頭取執行役員 半沢 淳一^{はんざわ じゅんいち}、以下 三菱 UFJ 銀行）および三菱 UFJ 証券ホールディングス株式会社（代表取締役社長 小林 真^{こばやし まこと}、以下 三菱 UFJ 証券 HD）は、現在三菱 UFJ 証券 HD が保有する海外証券現地法人¹（MUFG Securities EMEA plc、MUFG Securities Asia Limited、MUFG Securities (Canada), Ltd.）の持分 100%を三菱 UFJ 銀行が取得し、海外証券現地法人を三菱 UFJ 銀行の子会社とすること（以下 海外証券現地法人のグループ内再編）を決定いたしました。今後本邦および海外当局認可取得などの必要な対応の完了を前提に、2025年7月1日の再編を予定しています。

(1) 海外証券現地法人のグループ内再編の目的

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ（代表執行役社長 亀澤 宏規^{かめざわ ひろのり}、以下 MUFG）の2024年度からの中期経営計画では、「成長をつかむ」ための7つの成長戦略の一つとして「GCIB²・市場³一体ビジネスモデルの進化」を掲げています。

グローバル CIB 事業本部・市場事業本部では、これまでもグループ一体戦略に基づき、海外証券現地法人と三菱 UFJ 銀行との一体的な運営を推進してまいりましたが、海外ホールセール事業におけるお客さまの多様な課題やニーズへお応えするためには、銀行・証券といった業態の枠組みに捉われず、これまで以上にグループ一体的な視点でのスピーディーな意思決定、機動的なリソース配分、およびビジネスを支える基盤強化を行うことが重要と考えております。

今般、海外証券事業の経営管理を三菱 UFJ 銀行へ統合するとともに、海外証券現地法人のグループ内再編により、海外ホールセール事業における銀行・証券の一体運営態勢を強化し、プロダクト競争力やバリューチェーンの強化を通じた「GCIB・市場一体ビジネスモデルの進化」の実現を目指します。

¹ MUFG Securities Americas Inc.は現在既に米州 MUFG ホールディングスコーポレーション（以下 MUAH）を通じ三菱 UFJ 銀行の子会社であることから本銀行子会社化の対象外

² グローバル CIB 事業本部

³ 市場事業本部

(図表：海外証券現地法人のグループ内再編による主な期待効果)

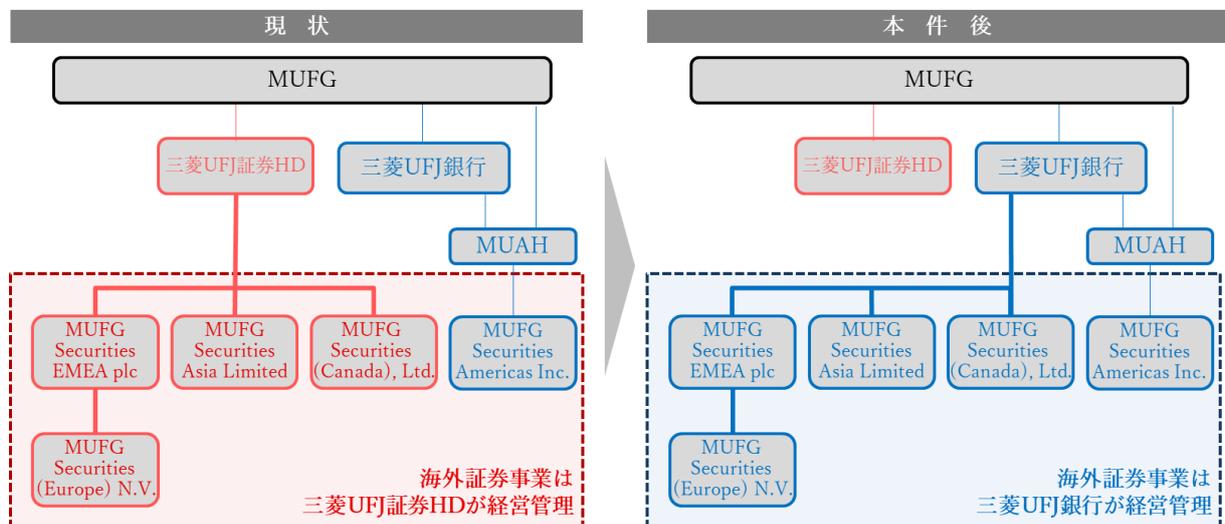
領域	主な期待効果
意思決定	親会社の経営管理態勢の統合によるグループ一体的な視点でのスピーディーな意思決定
リソース	銀行・証券一体での機動的なリソース配分、人材活用・育成
基盤強化	リスク管理や事務など、ビジネスを支える基盤の銀行・証券一体での更なる高度化に向けた土台の構築

(2) 海外証券現地法人のグループ内再編後の海外証券事業に係る経営管理

既に三菱UFJ銀行の子会社である米国の証券現地法人（MUFG Securities Americas Inc.）も含め、海外証券現地法人の事業は、現在三菱UFJ証券HDがその専門性などにに基づき経営管理を行っています。

今回の海外証券現地法人のグループ内再編により、海外証券現地法人の資本関係・経営管理態勢は三菱UFJ銀行に一本化しますが、今後も三菱UFJ証券HDが蓄積してきた海外証券事業に係る専門性などを活かして経営管理を行ってまいります。また、国内・海外証券事業間の業務上の連携やシナジーを維持した上で、銀行・証券の態勢を融合させた経営管理・業務推進の枠組みの構築を進めてまいります。

(図表：資本構成⁴の変更)



(3) 今後の予定

本決定に基づき、今後本邦・海外当局の認可取得を含む法令上の必要な対応を進めてまいります。これらの対応事項に係る準備期間に鑑み、2025年7月1日に銀行の子会社とすることを予定しています。

以上

⁴ 海外証券事業に係る資本関係のみを記載